

群 教 七	G02 - 03
	平16.221集

# 歴史的事象を多面的・多角的に考える ことのできる生徒を育てる指導法の工夫

— 「テーマ史」作りから歴史的事象と現代社会の  
結び付きを考える活動を通して —

特別研修員 小野 達寿 (昭和村立昭和中学校)

## 《研究の概要》

本研究は、中学校社会科の問題解決的な学習の過程に「テーマ史」作りから歴史的事象と現代社会の結び付きを考える活動を取り入れ、歴史的事象を多面的・多角的に考えることのできる生徒を育てるものである。具体的には、歴史的事象と現代社会の結び付きを、つかむ過程では自分とのかかわりから、追究する過程では現代社会へ伝わっている意味から、深める過程では複数の事象とのかかわりから考えるという指導法の工夫を行った。

【キーワード：社会—中 歴史 問題解決学習 学習指導法】

## I 主題設定の理由

社会科では、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質や能力を広い視野に立った社会的認識を通して育成することを目指している。その広い視野に立った見方・考え方の一つに社会的事象を多面的・多角的に考察する力があると考えられる。歴史学習においても歴史的事象を一面的にとらえるのではなく、様々な角度から考察する力が求められている。

生徒の実態を見ると、歴史的事象の内容を調べる活動は意欲的なので事実として理解する力は身に付いているが、他の時代の事象と比較したり関連させたりして考える力は十分に身に付いていない。また、歴史的事象を自分の生活と結び付けて考えられる生徒は少ない。

そこで、歴史学習を進める上で、歴史的事象をその時代の特色として理解するだけでなく、現代社会と結び付け、比較・関連させて考える学習を取り入れる必要があると考えた。この学習から、歴史的事象を歴史の流れの中でとらえる見方、歴史的事象が移り変わっているという見方、更に複数の事象と結び付いているという見方を養うことができると考える。また、歴史的事象が自分の生活や現代のしくみ・制度とも結び付いているという見方も養うことができると考える。これらの見方を養うことで、歴史的事象を多面的・多角的に考えることができると考える。

本研究では、「テーマ史」作りから歴史的事象と現代社会の結び付きを考える活動を問題解決的な学習の過程に位置付け、歴史的事象を多面的・多角的に考えることのできる生徒を育てようと考えた。つかむ過程では、歴史的事象に関する地域の歴史をもとに学習テーマを設定し、自分とのかかわりを考える。追究の過程では、学習テーマの現代社会への移り変わりを「テーマ史」としてまとめる活動を通して、歴史的事象が現代社会へ結び付いている意味を考える。深める過程では、「テーマ史」をもとに歴史的事象と結び付けられる事象を発見させる活動を通して、歴史的事象が現代社会のさまざまな事象と結び付いていることを考える。

以上の過程を経る学習を展開することで歴史的事象を多面的・多角的に考えることのできる生徒を育てることができると考え、本主題を設定した。

## Ⅱ 研究のねらい

問題解決的な学習の過程において、「テーマ史」作りから歴史的事象と現代社会の結び付きを考える活動を取り入れたことは、歴史的事象を多面的・多角的に考えることのできる生徒を育てるために有効であることを実践を通して明らかにする。

## Ⅲ 研究の見通し

問題解決的な学習の過程において、次のような活動を取り入れれば、歴史的事象を多面的・多角的に考えることのできる生徒を育てることができるであろう。

- 1 つかむ過程において、歴史的事象と地域の歴史を関連させて「テーマ史」の学習テーマを設定する活動を取り入れれば、歴史的事象と現代社会の結び付きを自分とのかかわりから考えることができるであろう。
- 2 追究する過程において、歴史的事象の現代社会への移り変わりを「テーマ史」にまとめる活動を取り入れれば、歴史的事象が現代社会へ結び付いている意味を考えることができるであろう。
- 3 深める過程において、歴史的事象に関連する事象を発見し、「テーマ史」に整理する活動を取り入れれば、歴史的事象と現代社会との結び付きを多面的・多角的に考えることができるであろう。

## Ⅳ 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 歴史的事象を多面的・多角的に考えるとは

本研究で目指す歴史的事象を多面的・多角的に考えるとは、各時代の特色としてとらえた歴史的事象を他の時代の事象と様々な視点から比較・関連して考えることである。本研究では、歴史的事象を現代社会の事象と比較・関連させて考えることを柱として、歴史的事象を身近な地域の歴史とのかかわり、事象の変遷、現代社会の事象とのかかわりや他の歴史的事象とのかかわりという視点から考えることとしている。これらの視点から歴史的事象と現代社会との結び付きを、つかむ過程では自分とのかかわりで考え、追究する過程では現代社会へ伝わっている意味を考え、深める過程では複数の事象とのかかわりから考えることによって、多面的・多角的な考え方を育てようとするものである。

#### (2) 「テーマ史」作りから歴史的事象と現代社会の結び付きを考える活動とは

本研究の「テーマ史」とは、一つの歴史的事象の現在までの変遷をまとめたものをもとに、歴史的事象と現代社会との結び付きを考えるにあたっての自分の考えをまとめ・整理するための学習シートである。歴史的事象と現代社会の結び付きを考えるとは、歴史的事象を現代社会の事象と比較・関連させて考えることである。「テーマ史」から時代間を比較することで歴史的事象の変遷が人々の生活や社会を発展させてきたという見方や歴史的事象が現代社会の事象をはじめ複数の事象と関連しているという見方を養うことができると考える。

## 2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

### (1) 授業実践計画と検証計画

対象	昭和村立昭和中学校 2年2組	単元	明治維新
実施期間	平成16年10月初旬～10月下旬	7時間	
検証項目	検証の視点	検証の方法	
見通し1	つかむ過程において、明治維新の改革と地域の歴史を関連させて「テーマ史」の学習テーマを設定する活動を取り入れたことは、明治維新の改革と現代社会の結び付きを自分とのかかわりから考えるために有効であったか。	ワークシートへの記述 観察	
見通し2	追究する過程において、学習テーマの現代社会への移り変わりを「テーマ史」にまとめる活動を取り入れたことは、明治維新の改革が現代社会へ結び付いている意味を考えるために有効であったか。	「テーマ史」への記述 観察 発表	
見通し3	深める過程において、学習テーマに関連する事象を発見し、「テーマ史」に整理する活動を取り入れたことは、明治維新の改革と現代社会の結び付きを多面的・多角的に考えるために有効であったか。	「テーマ史」への記述 観察	

### (2) 抽出生徒

A子	明治維新の改革が現代社会の事象と結び付いているとは考えられるが、具体的な事象への結び付きを考えることはできない。明治維新の改革が現代社会の何にどのようなすがたで結び付いているのかをつかませるとともに、通史の中から明治維新の改革をとらえる見方を養いたい。
B男	明治維新の改革を事実として認識できるが自分の生活や他の歴史的事象と結び付けては考えられない。明治維新の改革が過去の事実だけでなく自分の生活にも結び付いているという事実をつかませたい。

## V 研究の展開

### 1 単元の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領の歴史的分野の内容(5)ーイにあたり、明治維新の経緯あらしを理解させ、新政府の諸改革により近代国家の基礎が整えられたことに気付かせることをねらいとしている。開国は幕府の倒壊をもたらし、新政府を築いた明治政府は欧米にならった明治維新という大改革を断行した。この改革は社会全体を江戸時代とは大きく変えた。また、この改革は現代へ制度やしぐみを変えて伝わっている。すなわち、現代社会の基礎となっている制度やしぐみが多い。以上のことから、歴史的事象が社会に与える影響を考えたり、歴史的事象から現代社会との結び付きを考えるにふさわしいと考え、本単元を設定した。	
目標	明治維新の改革により近代国家の基礎が築かれたことや人々の生活の大きな変化についてに気付かせるとともに、明治維新の改革が変化しながら現代社会へ伝わっている様子や現代社会へ与えている影響を考える。	
評価規準	おおむね満足できる	十分満足できる
	<p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革の内容について関心をもって追究している。</li> <li>テーマ史作成に興味をもって取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革の内容について関心を持ち、資料を効果的に活用し、意欲的に追究している。</li> <li>テーマ史作成に興味を持ち、資料を効果的に活用し、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>
評価規準	【社会的な思考・判断】	【社会的な思考・判断】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革によって人々の生活が大きく変化したことについて考えている。</li> <li>明治維新の改革が現代社会に伝わっている様子や与えている影響について考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革によって人々の生活が大きく変化したことを近代国家の基礎が整えられたという視点から考察している。</li> <li>明治維新の改革が現代社会に伝わっている様子や与えている影響を、資料を活用しながら意欲的に考察している。</li> </ul>
評価規準	【資料活用 of 技能・表現】	【資料活用 of 技能・表現】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革の内容と文明開化の様子や維新期の身近な地域の歴史を様々な資料から調べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革の内容と文明開化の様子や維新期の身近な地域の歴史を様々な資料から調べ、表現方法を工夫しながらまとめている。</li> </ul>
評価規準	【社会的事象についての知識・理解】	【社会的事象についての知識・理解】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革の内容や文明開化による人々の生活の大きな変化について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治維新の改革の内容や文明開化により人々の生活に大きな変化があったことを近代国家の基礎が整えられたという視点から考え理解している。</li> </ul>

### 2 指導と評価の計画(全7時間)

過程	時間	主な学習活動	形態	評価項目(評価方法)
つかむ	1	<明治維新の概要をつかむ1・2> ・明治維新の主な改革(版籍奉還・廃藩置県・徴兵令・四民平等・学制・地租改正・殖産興業・文明開化)について調べ、分かったことをワークシートにまとめる。	一斉 個人	○明治維新の改革のあらましと大まかな内容を理解している。 (知:観察 ワークシートの記述)
	2	【見通し1】 <学習テーマを設定する:「テーマ史」作り1> ・明治維新の改革とかかわりのある地域の資料を見て、自分とのかかわりを考える。 ・上記の中から自分とのかかわりが深いものを学習テーマとして選び、理由を書く。	個人	○地域の歴史資料から自分とのかかわりを考えている。 (関:ワークシートへの記述 観察) ○自分とのかかわりの深いものを学習テーマに選んでいる。 (思:ワークシートへの記述 観察)
	3	<学習テーマの変遷をまとめる:「テーマ史」作り2>		○資料を使って調べながら、
	4			

追究する	5	・学習テーマとして選んだ事象が明治維新から現代社会に伝わっていく過程をテーマ史にまとめる。	個人	「テーマ史」を作成している。 (資:「テーマ史」への記述 観察)
	6	【見通し2】<明治維新の改革が現代社会へ結び付いている意味を考える:「テーマ史」作り3> ①学習テーマの現代への伝わり方を確認し、理由を考える。 a 明治維新の内容のまま b 廃止されている c 明治維新の内容と変化している 個人で考えグループで話し合う ②学習テーマを通史から見た共通のテーマに置き換える。 ③歴史的事象が現代社会へ結び付いている意味を考える。 ④①~③について学習テーマごとに発表する。	個人 ↓ グループ ↓ 全体	○「テーマ史」をもとに学習テーマとして選んだ事象が現代社会へ結び付いている意味を考える。 (思:「テーマ史」への記述 観察 発表)
深める	7	【見通し3】<歴史的事象と現代社会の結び付きを多面的・多角的に考える:「テーマ史」作り4> ①学習テーマと結び付いている現代社会の事象や明治維新の改革を探し、「テーマ史」に書き込む。 ②同じ学習テーマでグループを作り、自分で気付かなかった事象をつかむ。 ③「テーマ史」を公開しあい、学習テーマ以外の明治維新の改革が結び付いている事象をつかむ。	個人 ↓ グループ ↓ 全体	○学習テーマとして選んだ事象に関連する事象を発見することができる。 ○明治維新の改革は現代社会と深く結び付いていることをつかむことができる。 (思:「テーマ史」への記述 観察)

## VI 研究の結果と考察

### 1 つかむ過程において、明治維新の改革と地域の歴史を関連させて「テーマ史」の学習テーマを設定する活動を取り入れれば、明治維新の改革と現代社会の結び付きを自分とのかかわりから考えることができるであろう

明治維新の主な改革のうち生徒の生活に関連が深いと思われる7つの改革にしぼり、地域の歴史に関する資料を提示した(表1)。提示した資料が明治維新のどの改革と関連するかを確認させた後、提示した資料と自分とのかかわりを考えさせた。自分とのかかわりは、生活の中で利用しているものや自分のまわりに存在しているもの・社会のしくみから考えるよう支援した。それらの中から自分とのかかわりが深いと思われる明治維新の改革を学習テーマに設定させた。生徒は上越線への乗車・消費税の支払い・お金の使用といった実体験、先祖の徴兵という家族とのかかわり、群馬県在住や中学生であるという現在の事実を自分とのかかわりととらえ、学習テーマを設定した。

表1 提示資料と学習テーマの関係

提示資料名	学習テーマ	人数
①群馬県の成立	廃藩置県	6
②地券	地租改正	2
③久呂保村学校	学制	4
④久呂保村戦没者	徴兵令	5
⑤明治の時刻表	鉄道	2
⑥二銭銅貨	貨幣制度	8
⑦富岡製糸場	殖産興業	0

A子は提示資料から「二銭銅貨」に関する「貨幣制度」を学習テーマに設定した。A子は「二銭銅貨」と自分とのかかわりを「1円・10円・100円などのお金ができ、現在使っている」と記述した。隣の生徒と新札発行の会話をしてきたことから貨幣に興味をもっていたと思われる。そこへ生徒が持参した二銭銅貨が江戸時代の貨幣とも自分が使っている貨幣とも違うことに気付き、現在の貨幣のものは明治時代にあるのではないかと考え、追究の意欲をもったと考える。

B男は提示資料から「久呂保村の学校」に関する「学制」を学習テーマに設定した。B男は自分とのかかわりを「昭和村の今の学校とかかわりがあると思うから」と記述した。B男にとって学校は最も身近な存在であるとともに、久呂保村は昭和村の合併する以前の村であることから、久呂保村とB男の住んでいる地域や出身小学校とのかかわりにも着目したと考えられる。

以上のことから明治維新の改革を地域の歴史に関連させて学習テーマを設定させたことは、明治維新の改革と現代社会の結び付きを自分とのかかわりから考えるうえで有効であったと考える。

2 追究する過程において、学習テーマの現代社会への移り変わりを「テーマ史」にまとめる活動を取り入れれば、明治維新の改革が現代社会へ結び付いている意味を考えることができるであろう

「テーマ史」は教科書・授業で使用している資料集や用語集・教師が用意した資料を用いて作成した。「テーマ史」から学習テーマがどのように現代社会へ伝わっているかを学習テーマごとのグループで話し合わせた。生徒が選んだ学習テーマのうち、制度やしくみの内容が変化しているととらえたものは表1中の②③⑤⑥、廃止になったととらえたものは④、①については廃藩置県後は都道府県境界に変更がないので変化がないととらえた。次に学習テーマが現代社会へ結び付いている意味を作成した「テーマ史」の変遷や学習テーマの現代のすがたから考えさせた。人々の生活の変化や社会の発展の様子に着目して考えるよう支援した。生徒は生活の豊かさや便利さからとらえたり、国土防衛の必要性からとらえたりした。

A子は「貨幣制度」を「テーマ史」にまとめる活動から明治時代は円・銭・厘であった通貨単位が円へ統一していることに着目し、「貨幣制度はしくみを変えながら現代社会へ伝わっている。」ととらえた。通貨単位統一の理由は、「銭・厘があると計算がしづらいから」と考えた。現代社会へ伝わっている意味を「10進法で計算がしやすいしくみになった」と考えた。現代社会へ伝わっている意味を生活の変化という視点からとらえ、通貨単位の統一で貨幣が使いやすくなり生活が便利になったと考えたと窺える。また、A子は調べていくうちに明治以前の貨幣にも目を向けることができ、「貨幣制度」の大きな流れをとらえることができるようになったと考えられる(資料1)。

B男は「学制」を「テーマ史」にまとめる活動から義務教育の年限が時代とともに延びていることに着目し、「学制」はしくみを変えながら現代社会へ伝わっているととらえた。義務教育の年限が延びた理由を考えることはできなかったが、義務教育の年限が延びたことにより、「教育を受ける子どもが増えた」と考え、教育効果に着目した。このことから現代社会へ伝わっている意味を「義務教育で外国との交流が進み、日本の科学技術が大きく発展した」ととらえ、義務教育の年限の延長によって学力が向上したことから科学技術の発展に結び付け、社会の発展という意味から考えることができた(資料2)。

以上のことから明治維新の改革を「テーマ史」にまとめたことは、明治維新の改革が現代社会へ結び付いている意味を考えるうえで有効であったと考える。

3 深める過程において、学習テーマに関連する事象を発見し、「テーマ史」に整理する活動を取り入れれば、明治維新の改革と現代社会との結び付きを多面的・多角的に考えることができるであろう

学習テーマから連想される事象を自由に発見させ、その事象の中から自分の生活に関連が深いと思われる事象を選んで「テーマ史」に整理させ、さらに明治維新の改革と結び付けさせた。発見した学習テーマに関連する現代社会の事象は「テーマ史」に整理することで複数の結び付きをとらえることができ、さらに明治維新の改革と結び付けることで現代社会の事象が歴史的な事象と時代を超えて結び付いているという見方をもつことができたと考える。最後に全員の「テ

資料1 A子のテーマ史

時代	現代に伝わるまでのおもしろきこと	昭和村・群馬県との関連
奈良	官本銭	
鎌倉	和同開珎	
室町	宝永銭	
徳川	天明銭	
江戸	文政大判	
	金貨	
	薄札	
明治	1868:新政府が政官札発行	日本銀行
	1871:逓信省開業新貨券創布告	
	1872:西洋紙幣(組立紙幣)発行	沼田に銀行が出現
	1882:日本銀行開業	
	1897:貨幣法公布	
大正	1917:通貨不足のため紙幣発行	
昭和	1947:金貨の発行停止	
	1951:銀行券の発行停止	
	1952:日本銀行法公布	
	一億圓札の発行(通貨制度の移行)	
	1946:新円発行	
	1953:100円以上の通貨(紙貨)の発行停止	利根郡(信用金庫)ができた
	1964:利根川沖の紙貨発行	葉積ができた
	1966:千鳥川沖の紙貨発行	新保ができた
	1968:新貨券法施行	
平成	2000:二千円紙幣発行、新五円紙幣発行	
	2004:新千円紙幣発行、一万円紙幣発行	

資料2 学制が現代社会へ伝わっている意味(B男の考え)

現代の生活

小学校を義務教育

現代へ伝わっている意味を考えよう

①しるべき事象を整理しよう

②結び付いていよう

③結び付いていよう

④結び付いていよう

⑤結び付いていよう

⑥結び付いていよう

⑦結び付いていよう

⑧結び付いていよう

⑨結び付いていよう

⑩結び付いていよう

⑪結び付いていよう

⑫結び付いていよう

⑬結び付いていよう

⑭結び付いていよう

⑮結び付いていよう

⑯結び付いていよう

⑰結び付いていよう

⑱結び付いていよう

⑲結び付いていよう

⑳結び付いていよう

㉑結び付いていよう

㉒結び付いていよう

㉓結び付いていよう

㉔結び付いていよう

㉕結び付いていよう

㉖結び付いていよう

㉗結び付いていよう

㉘結び付いていよう

㉙結び付いていよう

㉚結び付いていよう

㉛結び付いていよう

㉜結び付いていよう

㉝結び付いていよう

㉞結び付いていよう

㉟結び付いていよう

㊱結び付いていよう

㊲結び付いていよう

㊳結び付いていよう

㊴結び付いていよう

㊵結び付いていよう

㊶結び付いていよう

㊷結び付いていよう

㊸結び付いていよう

㊹結び付いていよう

㊺結び付いていよう

㊻結び付いていよう

㊼結び付いていよう

㊽結び付いていよう

㊾結び付いていよう

㊿結び付いていよう

①義務教育の年限が変えている。

②教育を受ける子どもが増えた。

③義務教育で外国との交流が日本の科学技術が向上した。

「テーマ史」を発表し合う活動を通して、明治維新の改革が現代社会のどんな事象と結び付いているかを確認することで学習の共有化を図り、明治維新の改革が現代社会に結び付いているという事実を確認した。

A子は「貨幣制度」と関連する現代社会の事象を多数考え、その中から自分の生活にかかわりが深い事象を選び「テーマ史」に整理した（資料3）。整理した事象と結び付く理由は「銀行＝お金の出し入れをする、給料＝働いて得られるお金、税金＝国などに納めるお金」などとまとめた。「貨幣制度」を商品の売買だけでなく「貨幣制度」の中核となる銀行や労働賃金・税と結び付けられたということは貨幣の果たす役割を幅広くとらえようとしていることが窺える。

また、明治維新の改革とは「銀行＝銀行制度、給料＝殖産興業、税金＝地租改正」などと結び付けた。A子は授業の感想を「明治維新は今の生活の原点である」と記述したことから、「貨幣制度」に関連する現代社会の事象を明治維新の改革とも結び付けて考える多面的・多角的な考え方をつかむことができたと考える。

B男は「学制」と関連する現代社会の事象を自分の力で考えつくことができなかつたので、自分の生活に関する事象を考えるよう支援した。「テーマ史」に整理した事象は「制服・筆記用具・授業料」であり、結び付く理由は「学生服を着ているから・授業で使っているから」とまとめ、自分の学校生活とのかかわりを考えていた。

授業料についての記述はなかったが、毎月の集金と結び付けたと思われる。明治維新の改革との結び付きでは制服を殖産興業・文明開化と結び付けていた。殖産興業と結び付けられたことは制服が工場で生産されるという事実に気付いたからであり、「学制」を現代社会へ伝わっている意味でとらえた技術力の向上と結び付けて考えたことが窺える。B男は感想を、出身小学校の歴史や「今の義務教育のつながりを自分なりに理解できた」（資料4）とまとめたことから、「学制」を自分の生活に結び付けて考えることができるようになったとともに、明治維新の改革を多面的・多角的に考えようとしていたと考える。

以上のことから、学習テーマとした明治維新の改革を現代社会の事象と関連させたことは、明治維新の改革と現代社会の結び付きを多面的・多角的に考えるために有効だったと考える。

資料3 A子の発見した事象

関係すること	理由	明治維新との結びつき
銀行	お金の出し入れができる	銀行制度
服や文具・雑誌 などを買うこと	村店での支払い	殖産興業
税金	国・県・村に納めるお金	地租改正
給料	働いている人のお金	殖産興業
授業料・集金	学校に納める	学制
電車やバスの運賃	現金で支払う	鉄道
新札の発行	新しい紙幣(20年ぶり)	

資料4 B男の感想

この授業を通して、分かったことまとめよう！  
 Back To The Futureをやった1年の  
 文楽のつながりがあった。  
 あと、今の義務教育までにあつたことつながりが  
 自分なりに理解できた。

## VII 研究のまとめと今後の課題

- 「テーマ史」を作ることで、歴史的な事象を歴史の大きな流れの中でとらえる見方や歴史的な事象がしくみや制度を変化させながら現代社会へ伝わっているという見方を養うことができた。また、歴史的な事象は人々の生活の変化や社会の発展をもたらしており、そのことは何らかのかたちで自分の生活と結び付いているという事実に気付くことができた。
- 「テーマ史」から考える場面では、生徒の思考が広がるような資料の提示や発問などを工夫する必要がある。また、歴史的な事象を現代社会と比較・関連させる際、個々の事象だけでなく時代の全体像を比較・関連させる機会を、投入場面を含めて検討する必要がある。

### <参考文献>

- ・現代社会科教育実践講座 第9・10巻 現代社会科教育実践講座刊行会